

引地川かわくんだり実行委員会

羽黒トンボの調査

事業報告書

| | |
|--|---|
| 補助事業の区分 | めばえ・はぐくみ |
| 補助事業の名称 | ハグロトンボ調査 |
| 補助事業の目的 | 環境指標となるハグロトンボの数の調査を昨年に引き続き行う 市民へのアピール ハグロトンボについて学習する |
| 実施場所 | 引地川(山下橋～ふれあい広場) |
| 参加人数 | 27人【のべ人数 45人】 + 80人(環境立市フェア) |
| <p>事業実施の経過と成果</p> <p>【今回の補助金事業事業計画事業実施までの準備事業実施まで、どのように準備を進めて、事業を実施したか、また、どのような成果があったか、具体的に記載をお願いします。】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ハグロトンボの調査 事前に専門家の先生に相談。昨年と同じ方法で調査をしたため、データの蓄積ができた。 環境立市フェア参加 子供たちにハグロトンボを身近に感じてもらうために、ハグロトンボの工作(オリジナル)を考え、参加者と一緒に作成。作りながら、ハグロトンボのことにについて、説明、アピールをした。調査のパネルを展示。ハグロトンボのジオラマも展示。今後の活動につなげるためにアンケートを取った たくさんの子供や市民の方々にハグロトンボのことを知ってもらえた。 ハグロトンボの学習会の開催 自分たちのデータが貴重なものであり、今後も調査を続けデータを蓄積していくことが大切だということがわかった。今後の活動に対する示唆もいただいた。 報告書とパンフレットの作成 補助金を使って、きちりとした報告書を作ることができた。 |

補助事業収支決算書

ハグロトンボ調査

収入の部

【円】

| 区分 | 予算額 | 決算額 | 増減【 】 | 説明 |
|-----------|---------|---------|--------|----------------|
| 市民活動推進補助金 | 60,000 | 60,000 | 0 | |
| 分担金 | 40,000 | 25,000 | 15,000 | 引地川かわくんだり実行委員会 |
| 協賛金 | 0 | 15,000 | 15,000 | |
| 〔内訳〕 | | 10,000 | | 川と海の環境を守る会 |
| | | 5,000 | | 引地川水とみどりの会（個人） |
| 雑収入 | 0 | 612 | 612 | 個人持ち出し分 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 合計 | 100,000 | 100,612 | 612 | |

支出の部

【円】

| 区分 | 予算額 | 決算額 | 増減【 】 | 説明 |
|------|---------|---------|--------|---------------|
| 活動費 | 60,000 | 70,998 | 10,998 | |
| (内訳) | | 30,000 | | 学習会講師謝礼 |
| | | 1,200 | | 学習会会場使用料 |
| | | 27,960 | | 報告書作成費 |
| | | 5,898 | | 写真代 |
| | | 4,520 | | 環境立市フェア材料費 |
| | | 1,420 | | 環境立市フェアパネル材料費 |
| | 20,000 | 19,390 | 610 | リーフレット作成費 |
| | 15,000 | 8,700 | 6,300 | 交通費 |
| | 5,000 | 1,524 | 3,476 | お茶、紙コップ |
| 合計 | 100,000 | 100,612 | 612 | |

無償による労力などの実績

円

| 無償の労力の提供内容 | 単価 | 数量 | 計 |
|------------------------|-------|---------|--------|
| 調査協力費 | 2,000 | 7/3 15人 | 30,000 |
| 川の中でカウンター調査係と川の上を歩く記録係 | | 8/7 12人 | 24,000 |
| 報告書作成 | 500 | 20時間 | 10,000 |
| パンフレット作成 | 500 | 10時間 | 5,000 |
| チラシ作成 | 500 | 3時間 | 1,500 |
| ハグロトンボ工作準備 | 500 | 5時間 | 2,500 |
| 合計 | | | 73,000 |

補助金事業ふりかえりシート

補助金実施事業をふりかえり、今後の活動のヒントにつなげましょう！



| | |
|--|---|
| 補助事業の名称 | ハグロトンボ調査 |
| 団体名 | 引地川かわくだり |
| <p>地域に貢献</p> <p>【補助金事業を実施したことで、市民や地域に何を伝えることができましたか？また、市民や地域にどのような効果があったのか、記載してください。】</p> | <p><u>社会貢献・新しい公共性</u></p> <p>一度は絶滅したといわれていたハグロトンボの復活とその後の推移を証明する調査をし、きっちりとデータとして数字を残したこと。</p> <p>このデータは、生物学的に貴重なデータであると同時に、大和市行政にとり、長年にわたって取り組んできた河川改修の評価ともなるものである。</p> <p>同じような調査をコンサルや専門家に依頼したとしたら、相当な予算が必要になるところを、市民活動として行うことができたのは評価できるのではないかな。</p> <p>補助金により、専門家を招き学習会をすることができ、この調査が貴重な調査であること、そして、データを積み重ねることの大切さを確認することができたことは大きい。</p> <p>報告書とパンフをつくることができたので、今後の普及活動に役立てていきたい。</p> |
| <p>社会の資源</p> <p>【補助金事業を通じて、自分たちの資源を他の団体に提供しましたか？また、他の団体から資源を提供してもらいましたか？さらに、新しい社会資源を発見しましたか？】</p> | <p><u>社会資源の提供・活用・発見</u></p> <p>ハグロトンボの調査がきっかけで、「大和市文化財調査報告書 第46集」（1991年大和市教育委員会発行）の動植物調査を行い、ハグロトンボの絶滅の記録を残した大笹悦子さんとの交流が生まれた。その交流が、大笹さんが当時作られ、紛失してしまっていた幻の「泉の森かるた」再生につながり、その貴重な手作りのカルタを、引地川かわくだりに託していただくことになった。</p> <p>このカルタは当時の泉の森の動植物の姿を知る貴重な資料である。</p> <p>現在カルタは、しらかしの家で展示をしている。また、大判の複製が作られ、しらかしのボランティア協議会の自然案内のプログラムに活用されている。</p> <p>大笹さんとの交流が新聞記事になったことで、学校の総合学習で大和市の絶滅生物に関して取り組んでいる生徒のいる小学校から問い合わせがあり、資料やハグロトンボの調査報告書を提供することができた。</p> |
| <p>人との出会い</p> <p>【今回の事業実施により、団体の支援者又はともに事業を実施する仲間は生まれましたか？】</p> | <p><u>広がり・連携の可能性</u></p> <p>日頃、引地川で活動している流域グループと協力して調査を行うことができた。資金の面でも賛同していただき、協賛金を出資していただいた。</p> <p>横浜市のハグロトンボ一斉調査に参加したところ、横浜でハグロトンボの一斉調査に取り組むきっかけとなったのが、私たちのハグロトンボの調査の新聞記事であることがわかり、驚くと同時に波紋の石を投げた当事者となったことをうれしく思った。今後お互いに情報を交換することにより、大和市だけでなく、もっと広範囲の分析が可能になると思う。</p> <p>田口正男先生との出会い。素人の調査に、専門家の裏づけを得ることができたことは今後の活動を考える上で大変貴重なことである。また、田口先生も引地川の事例に大変興味を持たれ、今後一緒に調査に取り組んでいくことができそうである。</p> <p>大笹さんとの出会い。（上記）</p> |

| | |
|---|---|
| <p>CM、とっても大事</p> <p>【事業実施をどのように手法やツールでPRしましたか？】</p> | <p>PR</p> <p>環境立市フェアに参加し、調査結果を展示。ハグロトンボの工作を通じて、ハグロトンボ調査や大切さについて、たくさんの市民と子供たちにアピールをした。</p> <p>学習会のお知らせをタウンニュースに掲載</p> <p>生物のデータを取るという性格上、昨年と同じ条件、人数で調査をする必要がわかり、調査においては不特定多数への広報は行わなかった。</p> <p>横浜のハグロトンボー斉調査へ参加し、情報共有。また、大和市主催の二ヶ領用水ウォーキング参加者へお知らせをしたところ、学習会に来ていただけた。</p> |
| <p>みんなの声</p> <p>【事業に参加された方の声、活動メンバーの声をお聞かせください。】</p> | <p>ニーズの把握・メンバーの声</p> <p>・ハグロトンボを通して、身近な環境の仕組みがわかってきた。</p> <p>緑地と水とのつながり、ハグロトンボの生息環境の分析も必要と感じました。</p> <p>虫の世界ととても面白いと思いました。</p> <p>・子供と一緒に図鑑を見たり、特に夏は、虫取り、夜の観察回などと楽しんでいましたが、データを集めたり、進化という視点をもったりして昆虫をみるともっともっと楽しくなる！</p> <p>・近くに住むものとして(又、年を取るに従い、)地元(足元)の環境に表面的でなく、もう少し掘り下げてみようと思い参加しました。</p> |

補助金事業ふりかえりシート

| | |
|---|---|
| <p>事業の効果</p> <p>達成度</p> <p>【応募用紙に書かれた事業の効果を上げることはできましたか？また、効果を上げられなかったことはありますか？具体的に記載してください。】</p> | <p>結果</p> <p>昨年と同じ方法で調査を行うことにより、データの蓄積ができた。また、専門家の先生のお話を直接聞くことで、自分たちのやっている調査が、研究のためのデータとして十分活用できるものであることがわかった。</p> <p>また、今後も継続して調査を続けることの大切さも学んだ。</p> <p>補助金により、きっちりとした報告書とパンフレットを作成することができた。</p> <p>環境立市フェアにおいて、多くの人にハグロトンボのことをアピールすることができた。</p> <p>「泉の森かるた」など、ハグロトンボを通じて新たな展開があった。</p> <p>引地川フォーラムは行わなかった。</p> |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>それはどうして？</p> <p>【事業の効果を上げられた、上げられなかった、それぞれ該当する部分が、なぜ、そうなったのか？その要因を考えてみましょう！】</p> | <p>振り返り</p> <p>引地川フォーラムを行わなかったのは、講師と日程調整の都合で、学習会が12月にずれ込んだため、1月以降にフォーラム開催の日程調整ができなかったのがひとつの要因。今年度は、まだ、こつこつとデータを蓄積する段階。次年度以降、蝶を含めた調査などで、プロジェクトにかかわる人を広げ、データの分析を踏まえた上で、フォーラムを企画したほうが有効だと判断。</p> |
|--|--|

| | |
|--|---|
| <p>発展と改善</p> <p>【事業の効果を上げられた要因をさらにのばすこと、また、事業の効果を上げられなかった要因を解決するために、これからできることは何だと思えますか？具体的に記載してください。】</p> | <p>発展性</p> <p>学習会のなかで、子供たちや一般の人たちを巻き込んでいくにはどうしたらよいかという課題について、田口先生よりアドバイスをいただいた。</p> <p>ハグロトンボのデータベースの調査は今まで通りに行っていくことが望ましい。蝶の調査であれば、小さい子も一緒に参加することができる。トンボと並行して、蝶の調査を行えば、引地川の周りの自然の評価をすることができる。</p> <p>田口先生の津久井や相模原の蝶・トンボのデータと比較、検討することで、大和市の自然度をみることができる。</p> |
|--|---|

| | |
|---|---|
| <p>これから</p> <p>【今後、団体としての活動をどのように継続して、展開していきたいか。将来の展望を記載してください。】</p> | <p>継続性・発展性</p> <p>田口先生から、調査を継続し、データと蓄積することが重要であるということを伺い、今後も継続して調査を行っていきたいと思う。</p> <p>環境指標となるハグロトンボを見守ることにより、河川改修のありかたや、生物にとって住みよい環境について考えていきたい。また、それを子供たちや市民の皆さんと共有したい。</p> <p>横浜などの他エリアのハグロトンボ調査のグループとも連携を図っていきたい。</p> |
| <p>市との連携</p> <p>【事業実施にあたり、市との連携はどのようなものでしたか？市へ意見と併せて記載してください。】</p> | <p>連携</p> <p>ハグロトンボの復活そのものが、引地川清掃活動における市民と、行政の協働、そして、行政の自然を復活させる河川改修の賜物である。</p> <p>今後も私たちの川である引地川を守り育てるためにも、行政と連携をしながら活動を行っていきたいと思っている。</p> |

羽黒トンボの調査



平成17年度市民活動推進補助金のはぐくみの補助事業である 引地川かわくだけり実行委員会 の羽黒トンボの調査が8月7日に実施されました。
当日は、山下橋～福田一号橋と草柳橋からふれあい広場までの2グループで調査がおこなわれました。

今回、補助事業を見守る過程として、山下橋～福田一号橋までの調査に参加させていただきました！

10:00
御嶽橋から川に入り、調査開始です



ライバル登場！

引地川の右岸と左岸にわかれて羽黒トンボをオスとメスの数を調査しています



こんなに水がきれいなんです



事業に参加して

引地川のかわくだりは、
川のごみ拾い
子どもに川に親しんでもらう
川の生き物たちと触れ合う、そして行政との連携
の3つを活動の柱に、15年前に始められました。

羽黒トンボは、清流を好み、草の生い茂った川辺に生息するそうです。

市民の地道な努力と活動により、地域の川が再生し、川周辺の自然環境が復活してきたことを、当日、たくさんの羽黒トンボを見ることで実感することが出来ました。

今後は、羽黒トンボを大和市内だけでなく、引地川全域で見られるように、この活動を続け、広げていきたいと、代表の飯塚さんがお話していました。



[2005年度の補助金のページへもどる](#)

大和市役所市民経済部市民活動課市民活動支援担当

TEL 046-260-5103 / FAX 046-260-5138

E-mail : katudo@city.yamato.lg.jp